



グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 霧の中のツルアジサイ

02 ミヤマカラスアゲハ

Vol.324

2024/06/01



城坂結実 《センニンゴケ》

Photo 今月の1枚

以前から美幌峠へ行くたびに気になっていた、蛍光ピンク色の生き物。ようやく地衣類だと気がつき、調べてみたら「センニンゴケ」のよう。地衣類は、菌類に所属していながら藻類と共生するもので、“コケ”という名前はつきますが、コケ植物とは全く別物。その色から、小さいながらも存在感を放つセンニンゴケ。ぜひ探してみてください。(城坂結実)



01 Green Column グリーンコラム

霧の中の ツルアジサイ

写真・文／城坂結実

北海道ではあまりピンと来ませ
んが、6月は、全国的にジメ
ジメした梅雨の季節。そして、紫陽花^{あじさい}
の季節でもあります。紫陽花が咲き誇
る「あじさい寺」が、全国各地で話題
に上り始めるのも、もう間もなくで
しょう。

一般に、私たちが「アジサイ」と呼
ぶものは、園芸植物です。日本に生育
するガクアジサイという野生種を改良
したもので、大きな鞠^{まり}のような花が、
私たちの目を楽しませてくれます。鞠
を形作る一つ一つは、装飾花^{そうしよくか}と呼ば
れ、花びらのように見えているのは実
は萼片^{がくへん}です。

美幌町でよく見かける、自然に生育
するアジサイの仲間には、低木のノリ
ウツギ（別名：サビタ）と、つる性の
ツルアジサイがあります。どちらの花
にも、装飾花がつきます。ノリウツギ
もツルアジサイも、美幌町では市街地

付近で見られる他に、7月頃、美幌峠
付近の国道沿いで花を楽しむことがで
きます。

写真は10年ほど前、とある山中で
目を奪われたツルアジサイ（*Hydran-
gea petiolaris*）です。人気がなく、霧^{ひとけ}
で視界もあまり効かない山中だったの
で、随分と心細かったのですが、艶や
かで濃い緑色の葉と白くて大きな花が
気持ちをパッと明るくしてくれたのを
覚えています。

アジサイの仲間、アジサイ属には
Hydrange（ハイドランジア）という
学名がつき、その意味は「水の容器」。
水を好む所以でしょうか。

個人的に、ツルアジサイ鑑賞は、霧
のかかる日が断然おすすめ。ただし、
ヒグマや道迷いにはくれぐれもご注意
を。

ミヤマ カラスアゲハ

写真・文／鬼丸和幸



今年は、比較的暖冬だったことも一因なのか、全国的に、桜の開花が例年よりも早かったと聞いていますが、昆虫が活動するのも、例年よりも早い気がしています。この時期、山中の林道を歩いていると、道の所々に残っている水たまりに、青緑色のハネが美しいミヤマカラスアゲハが、吸水のために群れている場面に、よく遭遇します。

ミヤマカラスアゲハは、ハネを広げると8～13cmほどの大型のチョウで、全国に生息しています。ミヤマカラスアゲハは、成虫が春と夏の2回発生するという特徴があります。この時期に見られる春型は、夏型に比べると大きさは小さいのですが、特にオスは、後ハネの表縁が美しい赤色をしており、春のやさしい光の中で見ると、エレガントな雰囲気を感じさせてくれます。

ミヤマカラスアゲハのハネが美しいのは、ハネに色とりどりの美しい粉が、たくさんあるから…ではありません。実は、ミヤマカラスアゲハのハネには、凹凸のある^{りんぷん}鱗粉が規則正しく並んでおり、この凹凸に光が当たると、特定の色だけが反射され、出ていく構造になっているために、人間の目には、ハネに美しい色がついている（構造色と言います）ように見えるというわけです。

この“構造色”のしくみは、産業にも応用されており、例えば、雨に濡れても、紫外線に当たっても、色があせないコートが開発されたり、水で洗い流しても、美しい色のままの食器が開発されたりしています。

昆虫が備え持った機能を、知れば知るほど、その不思議さに魅了されます。

Exhibition 展示

特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」

10月20日（日）まで

Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

博物館講座（芸術編）「はじめての銅版画体験教室」

6/15（土）9:30～15:00

美幌博物館 1 階 講座室・500 円

講 師／清水 敦氏（銅版画家）

対 象／中学生以上（小学生以下は保護者同伴）

申込み／電話で博物館まで

プチ工房「折り染めうちわ」

6/28（金）、29（土）10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館 1 階 講座室・300 円

講 師／早田真莉子（美幌博物館）

対 象／どなたでも（小学 3 年生以下は保護者同伴）

申込み／申込み不要

送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどの
ご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

美味しいカップ麺を食べると、つつい塩分多いと知りながら、汁
で飲みほしていました。「塩辛くないので、そんなに塩分
濃くないのでは？」と思っていましたが、実は調味料や添
加物配合で、塩辛さが緩和された形で知覚されると知りま
した。注意したいと思います。（鬼丸和幸）



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発 行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編 集】城坂結実

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

